



# 武蔵野

学校だより NO. 9  
平成 29 年 12 月号  
昭島市立武蔵野小学校  
校長 岡部 操

## 人権週間

副校長 星野 典靖

学校は年度が区切りとなっていますので、1年の終わりは3月というように考えてしまっていますが、「暦」としての「1年の終わり」に、この1年間を振り返り、新たな気持ちで新年を迎えるという日本古来の習わしは大切にしたいと考えます。

ご家庭でも、この1年間をお子様と一緒に振り返り、その成長ぶりをぜひ、褒めていただきたいと思います。そして、新しい年をどのような目標をもって迎えるのか、共に話し合ってみてください。きっと新たな夢や希望が湧き出てくることでしょう。

さて、12月10日は「世界人権デー」、12月4日から10日までの1週間が人権週間です。これらは、1948年12月10日に世界人権宣言が国際連合で採択されたことを記念して定められました。今年で69回目を迎えますが、『多様な人々が共に暮らす東京にあって、すべての大人、子供たちが人権尊重の理念を正しく理解するとともに、思いやりの心や社会生活の基本的ルールを身に付け、社会に貢献しようとする精神をはぐくむこと（都教委・人権教育プログラムより抜粋）』が求められています。

本校でも、人を人として大事にする人権尊重の教育を推進しています。人権尊重の基本は、人間が人間として平等に生きるための権利を保障すること、つまり人間尊重の精神にあります。

女性、子ども、高齢者、障害のある人、アイヌの人々等の人権課題への理解と認識の不足から生じる偏見や差別意識による様々な問題は解消されなければなりません。そこで、教育の基本に、家庭での温かい雰囲気づくり、学校では集団生活の中で人権尊重の理念に基づく人をいたわる温かい心の育成があることを改めて確認したいと思います。

どの学級でも、子供たちには「自分からすすんで挨拶をしたり声を掛けたりすること」「自分の大切さと共に他の人を大切にすること」「自分がされたらいやなことは人にもしてはいけないこと」等と分かりやすい表現で指導をしていますが、頭の中では分かっているけれども、実際の行動がともなわない現実もあります。子供たちの何気ない日々の言動から、人権意識を高めるための指導を今後も積み重ねていきます。

そして、コミュニケーションを豊かにしながら優しい気持ちを伝え合うことの心地よさを感じて欲しいと願っています。

昭島市では、毎年人権週間に合わせて人権標語づくりに取り組んでいます。武蔵野小学校では6年生が人権標語をつくりました。「いじめのねもとをねらいうち」「いじめで何を得するの?」「声出して!見ているだけじゃ変わらない」の3点は、人権週間の期間中、昭島市役所の1階ロビーに提示されます。市役所にお寄りの際はぜひご覧になってください。